

カブリビを使用する 患者さんへ

この冊子では、カブリビによる治療を行う患者さんやご家族・介護者の方向けに、カブリビの作用の仕組みや溶解・投与方法をまとめています。いつでも参照できるよう、手の届くところに保管してください。

治療の効果を十分に得るためには、医師の指示に従って後天性血栓性血小板減少性紫斑病（後天性TTP）治療を継続することが大切です。不安なことやわからないことがあれば、いつでも医師、看護師または薬剤師にご相談ください。小児が使用する場合は、家族の方も正しい使用方法を理解して監督してください。

カブリビの溶解・投与操作で使用するもの



*「インジェクションセット（カブリビ用）」に含まれているもの

- 「カブリビ注射用10mg」と「インジェクションセット（カブリビ用）」をお手元にご用意ください。
- 操作前は手を洗ってください。
- 作業場所は清潔に保ってください。

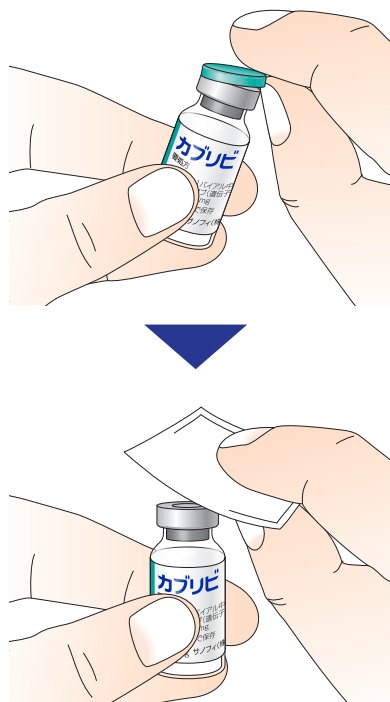
監修：埼玉医科大学病院 血液内科 教授 宮川 義隆 先生

1 カブリビを溶解する

確認事項

- 必要なものがそろっていること、また、汚れや破損がないことを確認してください。
※破損している場合は、使用しないでください。
- バイアルやシリンジの有効期間を確認してください。
※有効期間が過ぎたものや、箱の封かんシールが破損している場合は、使用しないでください。
- バイアルとシリンジを冷蔵庫で保管していた場合は、冷蔵庫から取り出して数分間待ち、室温に戻してから溶解操作を始めてください。
※他の方法で温めないでください。

1 バイアルの消毒

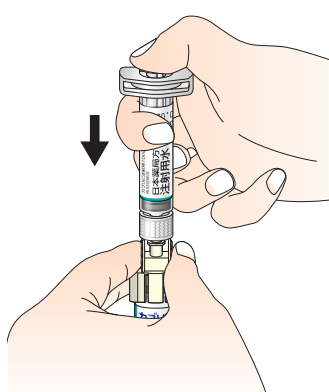


① バイアルに付いている緑色のキャップを外します。

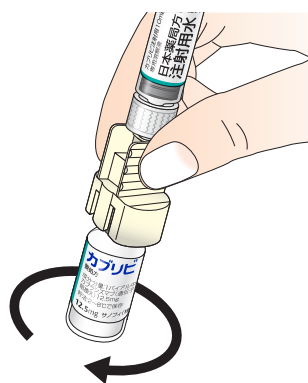
② 「インジェクションセット(カブリビ用)」内の消毒綿でゴム栓をふきます。

※ふいた後は、ゴム栓に触れないでください。

4 カブリビの溶解

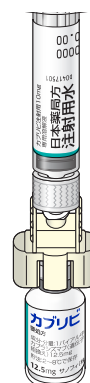


① シリンジを接続したバイアルを平らな場所に置きます。片方の手でバイアルを押さえ、もう一方の手でシリンジのプランジャーロッドを押して、シリンジ内の溶解液を全てバイアルに注入します。



② 調製器具のつまみを持ち、円を描くように静かに回転させ、バイアルの中身を溶解します。

※泡立ちを防ぐため、激しく振らないでください。



③ 平らな場所に置き、2分間待ってカブリビを完全に溶解させます。かたまりが残っていないことを目視で確認します。(溶液は無色澄明です)

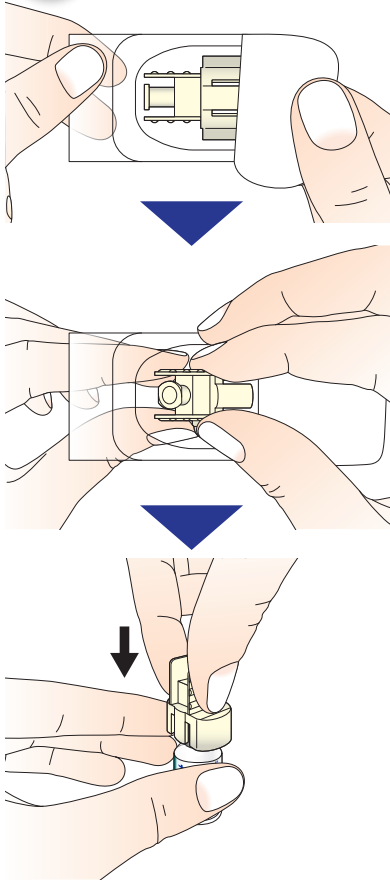
※溶解後、すぐに使用しない場合は冷蔵庫(2℃～8℃)で保管し、4時間以内に使用してください。

※溶解中、プランジャーロッドが自然に上昇する場合がありますが、問題ありません。



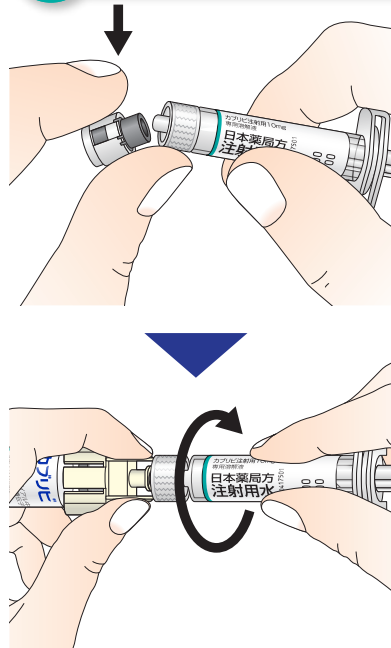
カブリビの溶解・投与方法は動画でもご紹介しています。
右の2次元コードよりご視聴いただけますので、あわせてご確認ください。

2 調製器具の取り付け



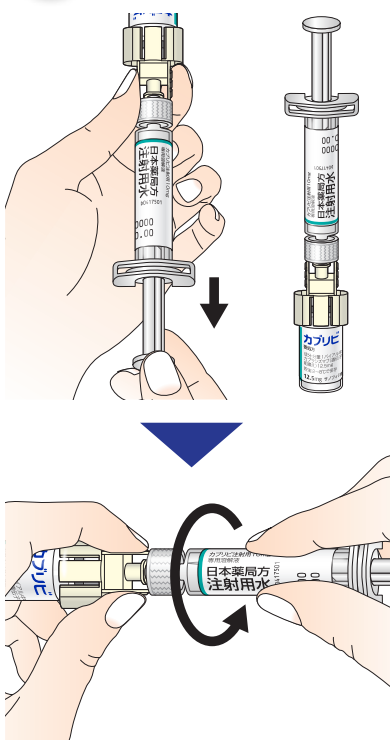
- ① 調製器具の入っているケースを手に取り、シールをはがします。
- ② 調製器具を指でつまんで、ケースから取り出します。
- ③ 調製器具をバイアルの上に置き、垂直に差し込んでバイアルに取り付けます。
※一度差し込んだら、バイアルから調製器具を取り外さないでください。

3 シリンジの接続



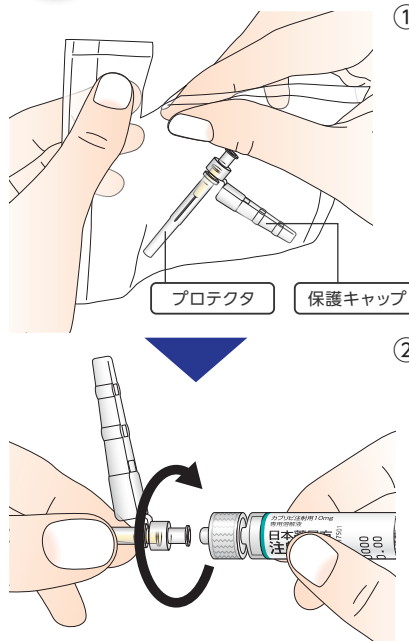
- ① シリンジの先端に付いているプラスチックのキャップを左右に折って取り外します。
- ② シリンジを時計回りに回しながら調製器具に差し込み、接続します。
※調製器具からシリンジが外れないことを確認してください。

5 溶液をシリンジに移す



- ① 調製器具とシリンジを接続したまま逆さにします。プランジャーロッドをゆっくりと引き、バイアル内の溶液を全てシリンジに移します。その後、再び逆さにして平らな場所に置きます。
- ② 片手で調製器具のつまみ、もう一方の手でシリンジを持ち、反時計回りに回しながらシリンジを調製器具から取り外します。

6 注射針の装着



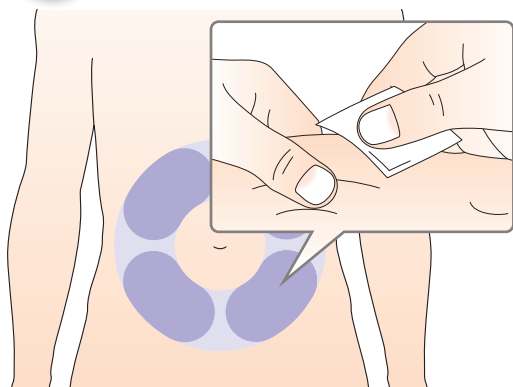
- ① 注射針をパッケージから取り出します。
- ② プロテクタを付けたまま、時計回りに回してシリンジに注射針をしっかりと装着します。

これで溶解操作は完了です

次ページに「投与方法」を記載しています。➡

2 カブリビを投与する

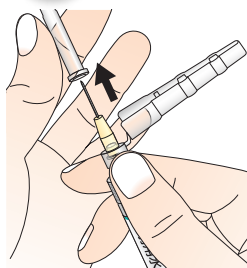
1 投与部位の消毒



投与部位を決定し、消毒綿で消毒します。

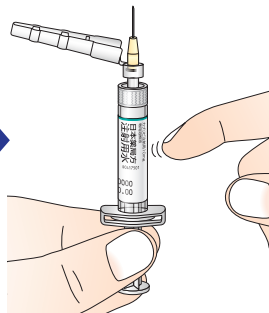
※投与部位はへその近くを避け、毎日変更してください。
(目安としてへそから5センチメートル離してください)

2 投与準備

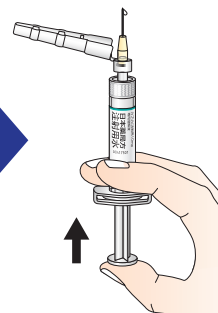


①注射針のプロテクタを取り外します。

※プロテクタは上方向に外してください。

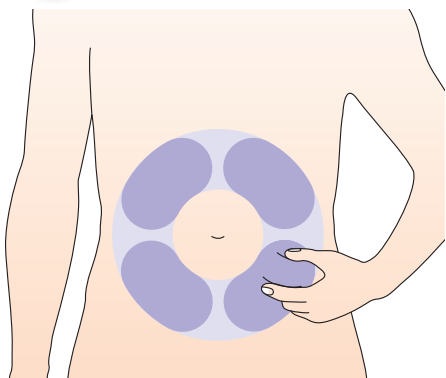


②注射針を上に向け、シリンジを目の高さに持ち上げます。気泡がある場合は、シリンジの側面を指で軽くたたいて気泡を先端に集めます。

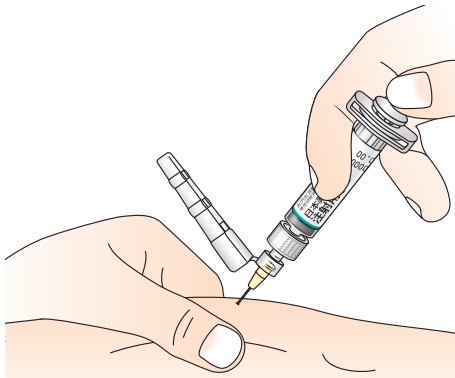


③溶液が少し出てくるまでプランジャーロッドを押し上げます。

3 カブリビの投与

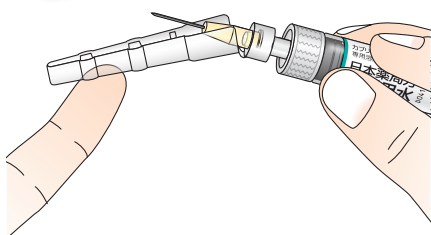


①片方の手でシリンジを持ち、もう一方の手で先ほど消毒した部位をつまみます。



②つまんだ部位に注射針を挿入します。プランジャーロッドを押し込み、カブリビを投与します。

4 片付け



投与が完了したら、注射針に保護キャップを装着し、廃棄容器に入れます。

※保護キャップを被せた後に、注射針を無理に外したり壊したりしないでください。けがをしたり、他の方が感染するおそれがあります。

注射針の破棄について

使用済みのシリンジは、注射針を付けたまま、医療用廃棄物として適切に処分してください。くわしくは、医療機関におたずねください。

お問い合わせ先: **くすり相談室(フリーダイヤル)**

0120-109-905

月～金 9:00～17:00(祝日・会社休日を除く)

ホームページ: <https://www.sanofi.co.jp/ja>

サノフィ株式会社

〒163-1488

東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

副作用について

カブリビの使用により、下記のような副作用が報告されています。これらの症状がみられたら、医師または医療機関に連絡してください。

特に注意が必要な副作用: 出血

カブリビは、出血（生命に関わる可能性のある出血を含む）の危険性を高める可能性があります。主に鼻血や歯ぐきから出血することがあります。

よく起こる副作用 (10%以上)

鼻血

歯肉出血（歯ぐきから血が出る）

注射部位反応（皮膚が赤くなる）

発熱

頻度は高くないものの、 注意が必要な副作用

息切れ（呼吸困難）

血尿

月経過多

直腸出血

腹壁血腫

次のような症状が現れたときは、すぐに医師または医療機関に連絡してください

- カブリビ使用期間中の異常な出血や内出血（あざ）
- 頭痛、息切れ、疲労感、めまい、ふらつきや失神

注意が必要な患者さん

下記の方は、カブリビの使用の際に注意が必要です。該当する場合は、医師、看護師または薬剤師に伝えてください。

- 出血がみられる、または凝固障害（例えば、血友病や他の血液凝固因子欠乏症）のある方
- 妊婦または妊娠している可能性のある女性
- 授乳中の女性
- 重度の肝機能障害がある方

カブリビを使用する際に注意が必要なお薬

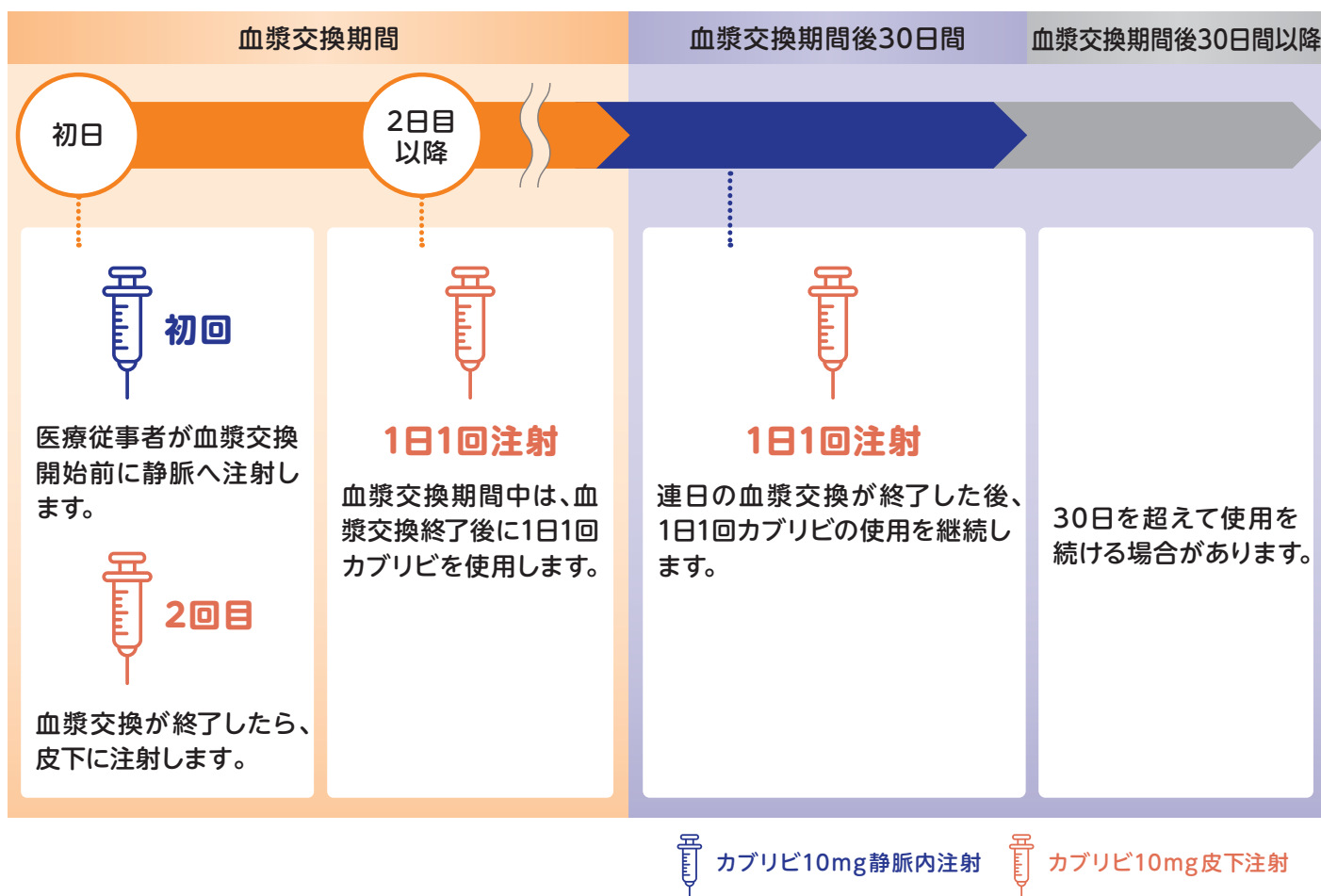
下記のお薬を使用している場合、カブリビの使用に影響が出る可能性があります。該当する場合は、医師、看護師または薬剤師に伝えてください。

- 抗凝固薬、血栓溶解薬
ビタミンK拮抗薬、経口ロロンビン阻害薬、凝固第X因子阻害薬、高用量ヘパリン、ウロキナーゼ、アルテプララーゼなど
- 血小板凝集抑制作用をもつ薬剤
チクロピジン塩酸塩、クロピドグレル硫酸塩、アセチルサリチル酸など

カブリビの対象患者さんと投与スケジュール

カブリビは、後天性血栓性血小板減少性紫斑病（後天性TTP）と診断された患者さんに処方されます。血漿交換や免疫抑制薬と一緒に使用します。

カブリビの投与スケジュール



初回

1回10mg（1バイアル）を静脈に注射します。血漿交換を始める前に使用します。

2回目以降

毎日、1バイアルを皮下注射します。血漿交換終了後に使用します。

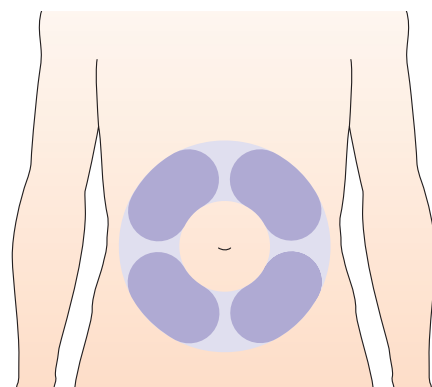
連日の血漿交換が終了した後、1日1回30日間カブリビの使用を続けます。（30日を超えて使用を続ける場合があります）

大切なこと

- 治療の効果を最大限に得るために、医師の指示に従って治療を継続しましょう。
- ご自身の判断で治療を中止すると、あなたの健康に深刻な影響を与える可能性があります。決められた期間、カブリビの使用を続けましょう。

使用にあたっての注意点

- カブリビを使用する前に、必ず投与部位を清潔にしてください。
投与部位を清潔に保つことで、感染のリスクを最小限に抑えることができます。
- 投与部位を毎日変更してください。
前日に投与した部位とは異なる位置を選んでください。
同じ場所に投与し続けると、皮膚の下が硬くなり、カブリビの効果が弱まる可能性があります。
- 注射針はゆっくりと挿入してください。



自宅でカブリビを使用するとき

カブリビは、患者さんご自身が自宅で使用できるお薬です。そのためには、担当医師からカブリビの管理方法や投与方法について指導を受ける必要があります。

カブリビの保管について

- 子どもの手の届かないところに保管してください。
- 冷蔵庫(2℃～8℃)で保管してください。凍結させないよう注意してください。
冷蔵庫内で保管することが望ましいですが、室温(30℃まで)でも2ヵ月間保管することができます(有効期間を超えない範囲で)。ただし、室温で保管した後、冷蔵庫での保管に変更することはできません。
- 光から保護するために、箱に入れたまま保管してください。

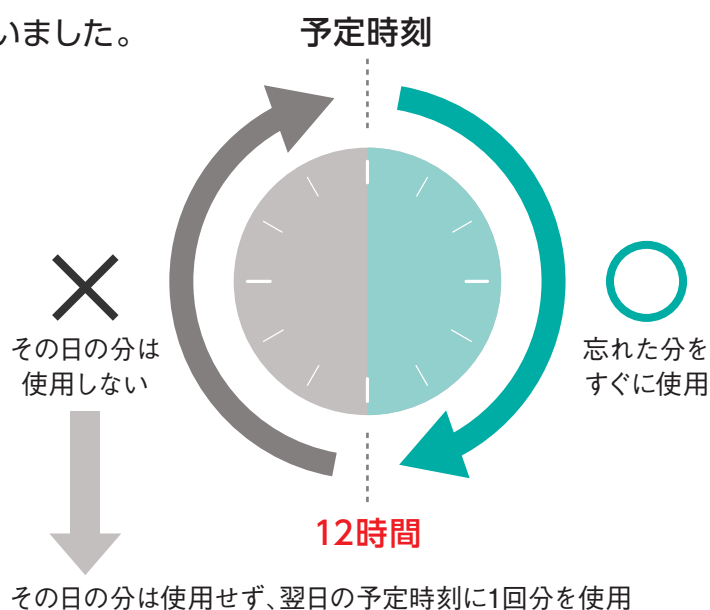
こんなことが起こった場合、どうしたらいいですか？

Q 予定時刻にカブリビの使用を忘れてしまいました。

A 予定時刻から12時間以内に気づいたときは、気づいたときにカブリビを使用してください。予定時刻より12時間を超えた場合は、その日の分は使用せず、次の日の予定時刻に1回分を使用してください。

Q 歯の手術・手術・内視鏡検査などを受ける予定があります。

A 手術・処置の前にカブリビの使用を中止する必要があります。事前に担当医師に相談してください。また、投与の再開についても注意が必要です。担当医師に相談して、指示に従ってください。

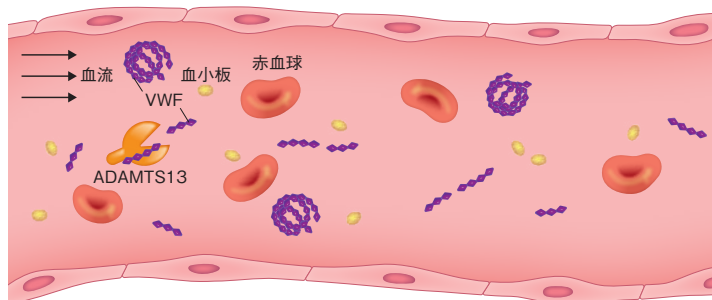


後天性血栓性血小板減少性紫斑病(後天性TTP)とは

後天性TTPは、免疫系の異常が原因で全身の血管に小さな血栓ができる病気です。血栓によって細い血管が詰まり、心臓、脳、腎臓などに重い臓器障害をきたすおそれがあるため、できるだけ早く治療を開始することが大切です。

正常な血管内では・・・

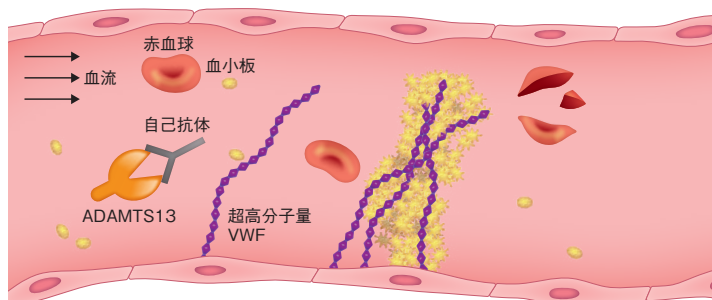
ADAMTS13が血栓をできにくくしている。



血小板が血栓を形成するには、フォン・ヴィレブランド因子 (VWF) という成分が重要な役割を果たします。VWFは非常に長い鎖のような形で、血小板とくっつきやすい性質をしていますが、通常はADAMTS13 (あだむていーえすじゅうさん) という酵素によって短く切断され、血栓ができないような仕組みとなっています。

後天性TTPでは・・・

ADAMTS13の働きが弱まった状態になる。



後天性TTPではADAMTS13とくっつく自己抗体ができ、ADAMTS13の働きが弱まってしまうため、VWFが長い鎖の状態ですべても残り、血栓ができやすくなります。

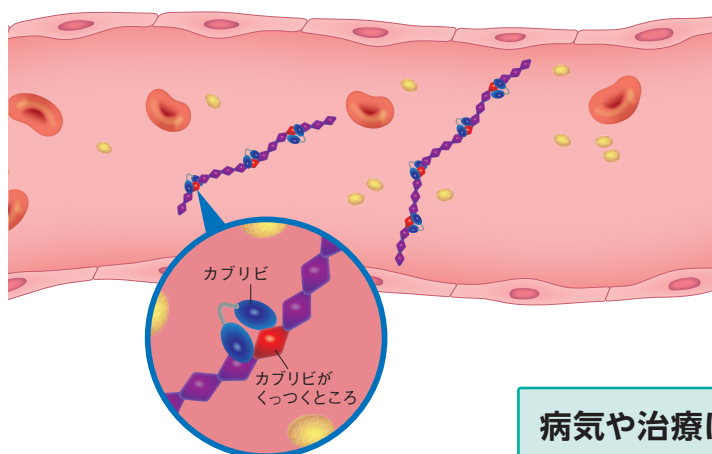
血小板: 傷からの出血を止めるための血栓を作る役割を担う
ADAMTS13: VWFを短く切断し血栓ができないようにする酵素

VWF: 血小板とくっついて血栓を作る
自己抗体: 自分の体内の成分を攻撃してしまう抗体

カブリビの働き

カブリビを投与すると・・・

カブリビがVWFにくっつき、血栓をできにくくする。



カブリビはVWFにくっつくため、血小板がVWFにくっついてできる血栓の形成を防ぎます。カブリビの働きによって細い血管に血栓ができにくくなるため、血管が詰まることで発生する臓器障害の悪化を防ぎます。

カブリビは、ADAMTS13を補充する目的で行う血漿交換や、自己抗体を減らす免疫抑制薬と一緒に使用します。

病気や治療についてわからないことや不安なことがあれば、医師、看護師または薬剤師に相談してください。